

# 第5学年2組 国語科学習活動案

男子14名 女子13名 計27名

場所 5年2組教室

授業者 岡崎 真大

## 1 単元名 物語を具体的に想像できる表現の効果について考えよう (大造じいさんとガン)

### 2 5年2組の子どもたち

本学級の子供達は、自分で考えをもつことをはじめとして、悩んだ時やもっと知りたいということきっかけにペア学習やグループ学習を行ってきた。「千年の釘」の学習では、白鷹さんの釘に対する一途な思いを本文から読み取り、交流をすることで自分の思いや考えを深めることができた。本文に立ち返りながら、一つのノンフィクション作品にじっくり浸ることで、作品に自分の思いを寄せるとともに、自分の読書の世界を広げることとなり、今まであまり手に取ることがなかったジャンルの読みへの挑戦をすることができた。今回は、物語をじっくりと読むことで自分の思いや考えを深めていくのだが、着目するところを「表現の効果」にすることで、新たな読書の仕方を学習していく。まだ自分の思いや考えを言葉で述べるのが難しい子どももいる。美しい表現を味わい、友達と交流する中で少しでも多く自分の思いや考えを語れるようになることを望んでいる。

### 3 教材について

本単元は、指導事項の「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定する。

本教材文は、大きく「前がき」と「本文」に分けられる。さらに、1年間という区切りごとに1つずつのエピソードを配した「1」から「4」のまとまりに分けられている。

前書きからは、作者が主人公である大造じいさんと出会い、人柄と話の魅力にひかれた様子が分かる。同時に物語の基礎である、「いつ、どこで、誰が、何をしたか」が明確に示されており、語りを聞くための読みの態勢を整える構成になっている。ここだけでも、大造じいさんの人柄を示す情報が溢れている。この物語の基礎となる情報は、真実を基に語られたことを理解し、大造じいさんの人柄や、時代を遡り物語に入り込むことにつながっていく。

本文は、狩人である大造じいさんと獲物である残雪の関係を基軸に進行する。残雪の様子や行動を受け、大造じいさんの心情がどのように移り変わっていくのかが、大きなポイントである。

加えて、大造じいさんの感情の様子や、大造じいさんとガンの様子を具体的に想像できる表現方法が随所に散りばめられている。①「一晩中」、「夏のうちから」など時の経過を表す表現、②「感嘆の声」、「会心のえみ」など漢語調の文体。③「わくわく」、「びりびり」などのオノマトペ。④「ううむ。」「うん。」などの発話。⑤「あの残雪め」、「ガンの英雄」などの呼称。⑥「あかつきの光」、「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写である。優れた表現方法に着目することで、心情を読み取る見方や考え方を広げることができる教材であり、学んだことを今後の生活に生かしていけると考える。

#### 4 子ども中心の単元づくりを目指して

##### (1) 単元の目標

- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(C読むこと)
- ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(C読むこと)

##### (2) 単元の構成

本単元は、文学的な文章「大造じいさんとガン」を読み、読み取ったことを基に、優れた表現や物語の魅力について自分なりの考えをまとめ、さらに友達と交流することで、様々な感じ方の違いを知り、多様な読み方があることを学ぶことができる構成となっている。

「読むこと」の領域の指導事項に関わっては、「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする」ために、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。」ことを押さえる。また、それを表現する手立ての一つとして、書評を位置づける。

単元の終末には、表現方法や表現の効果について、話し合いをもつことで自分と友だちの見方や考え方を比べ、自分の思いや考えを更新していくことになる。他の物語も表現に着目して読みたいと思えるような継続的な学習ができる単元である。

##### (3) 目指す子どもの姿にせまるための手立て

###### ①学習課題に自分事として取り組んでいる子ども

- ・学習の見通しがもてる掲示

学習の流れを常に見えるようにしておくことで、ゴールを明確にし、取り組みやすいようにする。

- ・子どものつぶやきや大事にしたい言葉の視覚化

前時の学習でポイントになりそうな言葉やふりかえりを掲示することで、自分の思いや考えを更新しやすくする。

###### ②自分の考えを伝え合っている子ども

- ・交流の仕方の工夫

ワールドカフェを用いて交流することで、いろいろな考えを聞いたり、話したりし、比較しながら思いを深めていけるようにする。(ワールドカフェ…4人班で話したことを、3人はそれぞれ別の班で話したり聞いたりし、1人は残って他の班から来た人たちと情報交換するというもの。)

- ・終末の工夫

単元のまとめとして書評という形にし、単元で働かせた見方や考え方をふり返られるようにする。

##### (4) 予想される子どもの学び(10時間扱い 本時 7時間目)

時	学習活動(○)と予想される子どもの反応(・)	主な留意点(・)と評価(◇)
1	○大造じいさんとガンの書評を書こう。 ・書評ってなんだろう。 ・書評を書くには物語を知る必要があるなあ。	・書評の形を知り、ただ読むだけにならないように意識できるようにする。
2	○物語全体の流れをとらえよう。	・現時点で読み取れたことを

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情曲線で物語を見ると、大造じいさんの変容がわかるね。</li> <li>・あんなにいまましいと思っていたのに、残雪の姿に感動したのかな。</li> </ul>	<p>心情曲線で視覚化する。</p> <p>◇様々な表現から、大まかな話の流れを読みとることができたか。</p> <p>(読むこと)</p>
3	<p>○大造じいさんの気持ちの変化に気づくところを探してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残雪が仲間のために体を張って助けたあたりから、じいさんの心の変化がみられたと思うな。</li> <li>・いまましく思っていたけど、作戦が失敗するたびに残雪の頭の良さを認めてきている感じがする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深く内容を理解するために表現に注目していくことを確認しながら進めていく。</li> </ul>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ大造じいさんの気持ちが大きく変わったのか、表現を手がかりに解き明かしていこう。</p> </div>	
5	<p>○残雪に対する心情を表す表現を手がかりに探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ううむ。」思わず感嘆の声をもらしてしまいました。は、感心したということだから、気持ちが変わってきているところかな。</li> <li>・一番変わったのは、「強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」というところかな。</li> </ul> <p>○大造じいさんにコメントしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ううん。」とうなった場面。残雪のかしこさにやられてしまったところは、悔しい気持ちがすごくわかったよ。</li> <li>・ただの鳥に対しているような気がしませんでした。と書いてあったところから、あんなにも仕留めたくていたのに、そんな風に思えるなんて、すごい衝撃を受けたんだなと思ったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現方法を見やすく分類していくことで活動の見通しをもちやすくする。</li> <li>・本文に立ち返りながらまとめていけるように声がけをする。</li> </ul> <p>◇グループで出た意見をノートにまとめることができたか。(読むこと)</p>
6	<p>○残雪に対する動きを表す表現を手がかりに探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。は、変化があったから出た行動だよ。</li> </ul> <p>○大造じいさんの気持ちが大きく変わったことについて結論を出そう。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦が上手くいかなくてイライラもしたと思うけれど、その分、残雪のすごさを認めていくことにつながったと思う。そんな時、残雪が仲間を助けようとして、けがをしても頭領のいげんを傷つけないように努力した姿を見て心が大きく変わったと思った。「強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」という心情を表す表現からわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流をする時に、一人一人が自分で意見を伝えられるように、メモや話し方の工夫ができるように声がけをする。</li> <li>・結論については、交流せず次時で根拠となる表現を探して交流できるようにする。</li> </ul> <p>◇考えを発言しながら、交流の中で自身の見方・考え方を更新することができたか。(読むこと)</p>

⑦	『情景描写を中心に物語を読もう。』 ○大造じいさんの気持ちと空の様子に注目して読もう。	
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東の空が真っ赤に燃えて、朝がきました。」は、ただの風景ではなくて、じいさんのやる気も感じる。色は赤だ。</li> <li>・「白い羽毛があかつきの空に光って散りました。」もあかつきだから赤だ。でも「白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。」は赤ではない。</li> <li>・青だ。闘争心ではないし、むしろ落ち着いている時だ。空の色は、じいさんの心の変化につながっているのではないかな。</li> <li>・つまり、空の色と大造じいさんの心は重なっているんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色に注目するとともに、前時に読み取ったことを生かして考えられるように声がけをする。</li> </ul>
8	○これまで学習した表現の効果について自分の考えをもとろう。	◇考えを発言しながら、交流の中で自身の見方・考え方を更新することができる。 (読むこと)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな表現があつて、どれもこの物語では欠かせないものだった。</li> <li>・具体的にイメージすることができるし、気持ちを色で表すことで、想像しやすくなっていた。</li> <li>・同じ意味でも表現の仕方によって印象が違うと思う。</li> </ul>	
9	○これまで考えた表現の効果を中心に書評を書こう。	・表現の効果に視点を当てることからそれていかないように声がけし、書評につながる考えがもてるようにする。
	・「大造じいさんとガン」は、様々な表現が使われています。特に情景描写には色が使われていて……。	
10	○表現に注目しながら椋鳩十の作品を味わおう。	◇魅力が伝わるような書評を書くことができたか。 (書評)

5 本時の学習 (7 / 10 時間)

(1) 目標

これまで読み取ってきたことを生かし、大造じいさんと空との関係を読み取ることができる。

(情景描写)

(2) 本時で求める姿

- ・課題に向き合い、自分なりの思いをもつ姿。(自分事)
- ・友達と交流することで、自分の見方や思いを更新する姿。(伝え合う)

(3) 学習活動の展開

学習活動と主な発問 (○) 予想される子どもの姿 (・)	留意点や支援(・)と評価(◇)
1 前時をふり返り、本時の課題をつかむ ○心情や行動に注目して読んできたが、他にも大造じいさんの心を映している分があります。例えば、「東の空が真っ赤に燃えて朝がきました。」は、どんな印象を受けますか。	・情景描写の前後の文にも着目するように促すようにする。

- ・真っ赤という色から闘志を感じる。
- ・「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」と前の文があるから、絶対仕留めてやるという感じもする。

○この時の空の色は、大造じいさんの気持ちを表していると言えるかな。

- ・言えると思う。けど、断言できない。
- ・他にも似たような所があったから言えると思う。

大造じいさんの気持ちと空の様子に注目して読もう。

- ・「あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んできました。」は、明け方の太陽が上ろうとしている時、赤っぽい空で、黄色に光った光がさしている様子を想像できた。じいさんは、絶対に仕留めてやると思っていた時だ。
- ・「白い羽毛があかつきの空に光って散りました。」のあかつきは、赤いイメージ。ハヤブサと闘っている最中も残雪を狙っているから、じいさんの仕留めたい気持ちがわかる。
- ・あれ、赤いイメージだけじゃないのもある。
- ・「秋の日は、美しくかがやいていました。」は前の文に昼近くとあって、かがやいていることから、良く晴れた青空を想像できる。
- ・「青くすんだ空を見上げながら、にっこりとなりました。」は、すっきりとした青色の空。

椋鳩十さんは、「青くすんだ空を見上げながら」に、大造じいさんのどんな気持ちをこめたのかな。

(グループ → 全体)

- ・「青くすんだ…」は、うまくいくぞという言葉を出しているから、自信の表れかな。
- ・上手くいくという心の余裕を表しているのだと思う。
- ・闘志は赤というイメージだったけれど、青はなんか違う。
- ・仕留めてやると追いこんでいる感じじゃなくて、冷静になっているのかな。
- ・よく読むと、他にも青を連想させる言葉があるね。
- ・「秋の日は…」は、昨日よりも、もっとたくさんをつりばりをばらまいておきました。ということから、今度は仕留められるという自信があって、心に余裕があったのかな。
- ・緊張感があまりない様子だったのかもしれない。
- ・「羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。」も青かな。前の時間に確認したけど、銃を下した後にこの文は書かれている。だから、この時はもう撃つ気がない時だ。仕留めてやると

- ・聞いたことはメモし、自分の言葉でも話せるように声かけをする。

- ・見やすい板書で話のポイントが見られるように配慮する。

- ・色だけではなく、前時の心情で学習したことを生かせるよう声かけをする。

いう気持ちじゃなくなっている。

- ・最後の場面に「らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。」とあって、じいさんが見上げている空は青かったのだと思う。ある晴れた春の朝という文もあるし、この時には敵同士だけど、英雄とまでいっているから、ただ仕留めたいではなくなっている。
- ・堂々と戦おうといっているし、挿絵を見ても青だと分かるから、じいさんの気持ちが穏やかな様子がわかる。

○大造じいさんの心の様子と空の色は重なっていると言えるかな。

- ・どれも、前の時間に読み取った心情と重なるから言える。
- ・その時その時の気持ちを、赤と青で表すことでより想像できた。

○今日の学習をふり返り、椋鳩十さんにコメントしてみよう。

(時間があれば全体交流)

- ・今日は、いつもとは違う見方をしてみたけれど、色で大造じいさんの心を表していたことにびっくりしました。
- ・赤と青だけなのに、それぞれ表し方が違って、いろいろな表し方を知ることができました。
- ・同じ色でも、言い方が違うだけで、こんなにも印象が違うなんて面白いです。
- ・前に俳句で学習した時みたいに、直接的な言い方じゃなくても、その時の様子を伝えられる言葉がたくさんあることを知りました。
- ・今まで読んできて、大造じいさんの心の変化が大きかった所がすでに分かったつもりでいたけど、今日見つけた書き方が加わることで、より詳しく分かった気がします。
- ・想像が広がるような書き方だなと思いました。

◇考えを発言しながら、交流の中で自身の見方・考え方を広げることができたか。  
(発言・ノート)